

中期・長期留学にかかる
履修と単位修得についての手引き

第5版

令和5年6月

令和3年度以前入学者用

長崎大学 多文化社会学部

はじめに	3
1. 留学の時期と履修	3
2. 留学先で修得した単位の認定方式	4
3. 単位認定の審査基準と分類	5
4. 単位認定の事前確認について	7
5. 留学中における「基礎演習」「専門演習」の取扱いについて	7
6. 留学中における卒業研究の履修について	8
7. 単位認定に必要な書類	8
8. 単位認定申請のスケジュール	8
9. 中期・長期留学に係る手続き及び必要書類	9

はじめに

この手引きにおける「留学」とは、長崎大学多文化社会学部が実施・認定する「中期・長期留学」のことをいいます。学生便覧の説明のとおり、「中期・長期留学」は、大学間の学術交流協定に基づく交換留学として実施されるものであり、学生は長崎大学に学費を納入し、在学したまま留学することが条件となります。よって、他の形態の留学（例：短期留学、私費留学等）については、この手引きの範囲外となりますので、注意してください。また、オランダ特別コース所属学生のライデン大学への留学については、単位認定の方式等、異なる部分がありますので、詳細については、多文化社会学部学務係に確認してください。

なお、学生便覧または学部による掲示物等と、この手引きに相違がある場合には、学生便覧または掲示物等が優先されますが、不明な点があれば多文化社会学部学務係に問い合わせてください。

また、新たな規定の策定等に伴い、この手引きは改定されます。常に最新版の手引きを参照するようにしてください。旧版の手引きを参照したことによって生じた問題等については、対応しかねます。

1. 留学の時期と履修

多文化社会学部の中期・長期留学の最たる目標は、語学力の修得ではなく、専門性の深化を追求することにあります。そのため、中期・長期留学は、3年次以降の実施を基本モデルとして制度設計されています。しかし、修得単位数や英語要件を満たしていれば、2年次後期から留学することも可能です。

ただし、多文化社会学部の必修科目及び選択必修科目には、1年次から4年次までの標準履修年次が定められています。加えて、入門講義科目・基礎講義科目・専門講義科目等から成るカリキュラムの関係上、標準履修年次に単位を修得しておかなければ、結果として、適当な時期に修得すべき単位を修得することができず、卒業を延期せざるを得ない可能性も生じます。よって、留学を行う時期と、単位（特に必修科目・選択必修科目の単位）を修得する時期の整合性を、事前に入念に検討し、計画を立てておくことが肝要です。検討しておくべき点の一例として、以下が挙げられます。

【2年次後期から留学する場合】

- ・教養教育科目の履修と単位修得は適切にできているか？
- ・基礎講義科目の履修と単位修得は適切にできるか？

※「基礎演習Ⅱ」の単位は、中期・長期留学による単位認定を通じて修得する。

【3年次から留学する場合】

- ・専門講義科目の履修と単位修得は適切にできるか？
- ・卒業論文作成に向けた準備について、定期的に指導教員と議論する必要がある。

※「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の単位は、中期・長期留学による単位認定を通じて修得する。

【4年次から留学する場合】

・「卒業研究」の履修、及び卒業論文の作成準備と執筆時期について、定期的に指導教員と議論する必要がある。

なお、新年度及び新学期の開始時期は、国、大学毎に異なります。希望留学先の学期制度や学年暦をよく確認しながら、留学時期を決めることが重要です。

2. 留学先で修得した単位の認定方式

中期・長期留学は、長崎大学多文化社会学部のディプロマポリシーに対応した人材として卒業する過程において、1 セメスターないし2 セメスターに相当する期間、留学することによって、専門性をいっそう深めるために実施されます。留学期間中に単位修得した科目もまた、多文化社会学部の学生としての学びの中に位置づけられます。そのため、留学中に多文化社会学部の学びの専門性を深めることに資する科目の単位を修得した場合には「振替認定」を行い、それ以外の場合には「科目認定」を行うこととなります。

・長崎大学で開講している科目の単位に読み替えられる場合は「振替認定」

留学先にて修得した単位のうち、授業概要・シラバスを内容と形態の観点から精査して、長崎大学で開講している科目と内容の点での関連、または形態の点で対応があるとみなされる場合、長崎大学で開講している科目の単位に読み替えます。基本的には学部専門科目が対象ですが、外国語科目等の教養教育科目も対象となります。

本学と留学先の授業を単純に一对一で対応させるとは限らず、以下のような柔軟な対応となります：留学先にて単位修得した科目が、①長崎大学では複数の科目に読み替える、②複数の科目の構成要素を合わせて一つの科目に読み替える、③英語で開講されているがゆえに英語系の科目として認定する、④科目の構成要素に討論やチュータリングが含まれているがゆえに演習系の科目として認定する、⑤一つの科目に対して①～④の対応を組み合わせる。

振替認定を申請する際には、留学先で単位を修得した科目と長崎大学で振替を希望する科目の両方でシラバスを熟読してください。上述の通り、単位振替には、内容もしくは形態面での対応や整合性が必要となりますから、自分自身でシラバスを確認した上で、本当に振替が可能であるかについて、しっかりと検討を行ってください。

長崎大学の学則上、振替認定の対象となる単位数の合計は、教養教育科目及び専門教育科目を合わせて60単位となっています。この上限には、短期留学などで振り替えた単位も含まれますので、仮に多くの科目の振り替えを希望する場合は、上限に留意してください。

・読み替えられる科目がない場合は「科目認定」

自由科目（※最低修得単位数には算入されない）と同等の扱いとなります。

成績証明書には留学先大学での科目名のまま記載されます。

3. 単位認定の審査基準と分類

単位の認定は、原則として、授業内容と総学習時間数を基に審査します。認定基準は、以下のとおり大きく2つあります。どちらの基準が適用されるかは、留学先の大学が用いている単位付与のシステムによって異なります。

【基準1：実際の授業時間数】

- ・ 原則として、長崎大学開講の授業と同じく、「授業時間数 1,350 分（90 分授業×15 回）＝2 単位」「授業時間数 2,700 分（90 分授業×30 回）＝4 単位」として、実際の授業時間数にて単位数を算出します。
- ・ 国際的な単位互換方式による単位数が明記されていない場合は、この基準1に則って単位を認定します。

【基準2：国際的な単位互換方式が用いられている科目の場合】

- ・ 「ヨーロッパ単位互換・累積制度（ECTS）」が用いられている科目の場合：
原則として「ECTS 1 単位＝長崎大学の 0.7 単位」として、単位数を算出します。

「ヨーロッパ単位互換・累積制度（European Credit Transfer and Accumulation System: ECTS）」とは？

欧州委員会のエラスムス計画の下に策定された、1 年間の学修を最高 60 単位に換算し、在籍大学の単位へ読み替えることにより単位互換を促進する制度です。主にヨーロッパの大学間で用いられています。現在では多文化社会学部の協定校を含め、ヨーロッパのほとんどの大学が ECTS を採用しています（但し科目や学部によって除外されている場合もあります）。

- ・ 「UMAP 単位互換制度（UCTS）」が用いられている科目の場合：
「UCTS 1 単位＝長崎大学の 1 単位」とみなし、単位数を算出します。

「UMAP 単位互換制度（UMAP Credit Transfer Scheme: UCTS）」とは？

UMAP（アジア・太平洋大学交流機構）によるアジア・太平洋地域の大学において単位互換を促進する制度で、試行段階にあります。日本の他、米国、カナダ、オーストラリア、中国等、36 か国が参加しています。

多文化社会学部の協定校のうち、UCTS を採用している大学の一例は以下のとおりです（科目や学部によって除外されている場合もあります）。

〔マレーシア〕 ティラーズ大学（一部のみ）

大学によってシラバスの表記の仕方と情報量に違いがあるため、提供された情報の中で、認定される科目と単位数が最も多くなる情報を採用します。授業時間外であっても、シラバスや配付される授業計画書に記載があれば、可能な限りチュータリングや自主学習の時間

も学習時間としてカウントしますので、総学習時間数を推定できる根拠資料等があれば積極的に添付資料として提出してください。

ただし、総学習時間数を推定できる根拠資料として、課された課題や、作成したレポート等は認められませんので注意してください。

※オーストラリアの大学へ留学した場合の単位認定について

オーストラリアへ留学した学生の単位認定を行う場合、認定を行う単位数は、授業時間数・総学習時間ではなく、以下のとおり ECTS で換算します。

大学名	1 科目当りの単位数
サザンクロス大学	7.5ECTS=本学の 5 単位相当
サンシャインコースト大学	7.5ECTS=本学の 5 単位相当
ディーキン大学	7.5ECTS=本学の 5 単位相当
クイーンズランド工科大学	7.5ECTS=本学の 5 単位相当

成績評価については、留学先大学におけるナンバリングシステムでの位置づけと評価を把握及び考慮し、相対的かつ総合的に判断した上で、長崎大学での独自の成績評価に置き換えます。

外国語科目の単位認定

- 上述の通り、教養教育の外国語科目の単位認定も申請することができます。ただし、留学等によって認定がなされる教養教育・外国語科目の単位は最大で 3 単位までとなっています。短期留学に参加した場合や初習外国語研修に参加した場合の認定を含めて 3 単位ですので、超過のないように気をつけてください。なお、外国語検定試験のスコアや入学前既修得単位による単位認定は別枠です。
- 多文化社会学部で開講している外国語科目(「Reading and Discussion II」、「Debate」等)は教養教育の英語科目に含まれません。よって、振替認定の条件を満たしている場合、教養教育の英語科目とは別に、認定の対象とすることが可能です。

※ 教職科目の単位認定

単位の認定にあたって、教育職員免許状取得に必須の科目である 3 年次開講の「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」は振替認定の対象となりません。仮に留学先で英語教育系の授業を履修し、単位を修得したとしても、この 2 科目との振替はできません。3 年次に中期・長期留学を行い、この 2 科目の履修ができなかった場合、4 年次前期に教育実習を受講できず、4 年卒業での免許状の取得ができないことになります。

4. 単位認定の事前確認について

自分の履修予定科目が多文化社会学部の科目に振替認定・科目認定されるかどうか、疑問や不安がある場合は、留学開始前、ないしは留学中に単位認定の見通しについて、事前に照会することが可能です。その場合、7. 単位認定に必要な書類のうち、「(1) 申請用紙(「中期・長期留学における履修科目の単位認定審査願」)」と「(4) 授業概要(シラバス)のコピー」を添えて、多文化社会学部学務係に問い合わせてください。申請があり次第、対応します。

5. 留学中における「基礎演習」「専門演習」の取扱いについて

留学期間中に開講される「基礎演習」「専門演習」(以下「演習科目」)は、原則として、留学先大学にて修得した演習系科目の単位の振替認定手続きにより単位認定を行ってください。講義のなかにチュータリング、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、フィールドワークといった演習に関わる要素が一部でも含まれていれば、「基礎演習」「専門演習」として認定することが可能です。ほぼすべての科目において、これらの要素は含まれていると考えられるため、原則として、留学中に多文化社会学部の演習科目を履修することを認めていません。

ただし、次に掲げる要件のいずれかを満たし、留学期間中に「基礎演習」「専門演習」を履修することが必要であると教務委員会が認めたときは、通学による対面授業に加えてメディアを利用した授業により、当該科目を履修することができます。

- (1) 留学先大学において演習系科目が提供されない場合
- (2) その他教務委員会が必要と認めた場合

上述の要件を満たす場合で留学期間中の「基礎演習」「専門演習」の履修を希望する学生は、当該授業を行う指導教員と相談の上、次に掲げる書類を学務係に提出してください。

- (1) 中期又は長期留学における「基礎演習」「専門演習」の履修願
- (2) 履修を希望する「基礎演習」「専門演習」のシラバス
- (3) 「基礎演習」「専門演習」の履修が必要な根拠を証明する書類

6. 留学中における卒業研究の履修

3年次後期から1年間の長期留学をする、4年次後期から半年間中期留学をする、といった場合は、卒業研究の履修期間と重複することになります。留学期間と卒業研究の履修期間との重なりは、半期であれば認めています。3年後期から1年間長期留学を行い4年間での卒業を希望する場合は、4年次前期に「卒業研究」を履修登録してください。4年後期に授業到達目標に達しており卒業研究が適切であると判断された場合は、卒業研究の単位が付与されます。同時に、留学期間中も含めて卒業研究に取り組むこと、指導教員と連絡を取り合って定期的に進捗を報告し、指導を受けることが、不可欠になります。その他、題目届の扱いや中間発表会等詳細については、学生便覧の中にある「卒業研究及び特別研究の履修に関する申し合わせ」を参照してください。留学中であっても、卒業論文提出の提出延期を認

める、卒業論文等成果発表会での発表免除を認めるといった扱いはしません。

卒業研究を留学期間中に履修する場合は、履修登録は学務係で行います。履修登録を希望する場合は、学務係に履修登録期間中に申し出てください。

卒業研究の履修登録期間が、長期留学の全てに重なることは認めていません。質の高い卒業研究を執筆するための十分な指導を行うことが難しくなるためです。例えば4年前期から1年間長期留学を行って、4年間で卒業を希望することはできません。この場合は、最短期でも卒業は4年半での卒業（9月卒業）になります。

7. 単位認定に必要な書類

(1) 申請用紙（「中期・長期留学における履修科目の単位認定審査願」）

(2) 留学先から発行された成績証明書【原本】

→通常、長崎大学に郵送されてきます。学務係に届いた場合は、連絡をします。

(3) 留学先の成績評価基準が分かる資料

（例：「AA（90点以上）、A（89～80点）…」等具体的な数値が示されている資料）

(4) 授業概要（シラバス）のコピー（英語ないしは日本語）

→ウェブ上でログインしなければシラバスが閲覧できない大学もあるので、必ず早めに印刷しておくこと。英語ないしは日本語の授業概要を入手できない場合は、原語のコピーに加えて、英語や日本語の翻訳を添付すること。

8. 単位認定申請のスケジュール

【申請期間】

- ・ 前期：8月10日まで
- ・ 後期：2月10日まで
- 休日の場合、その直前の平日を締切とします。
- 原則として、留学から帰国した時期からより近い申請期限に合わせて申請を行ってください。（ただし、帰国時期は留学先によって異なるので、申請時期の詳細については学務係に問い合わせること。）
- 単位認定の申請は1回しかできない上、一度認定を行うとその認定内容の取消はできません。また、単位認定内容が確定した段階で単位認定された科目の履修はできなくなります。申請内容は指導教員にも相談の上よく確認してください。

【単位認定審査の結果通知時期】

- ・ 前期の場合：9月末～11月末を予定。
- ・ 後期の場合：3月末～5月末を予定。
- 繁忙期のため、通知が遅れる場合があります。通知が遅れが生じると予想される場合は、その旨を連絡します。
- 教養教育科目については原則年2回のみ審査となります。（教養教育科目について

も、教養教育の窓口ではなく、多文化社会学部学務係に申請してください。)

- 英語開講科目を修得し、教養教育科目の単位認定を申請する場合は、多文化社会学部で審査を行った後に、さらに教養教育にて単位認定の審査をします。そのため、正式な認定が出るまでにしばらく時間を要します。

9. 中期・長期留学に係る手続き及び必要書類

中期・長期留学に係る手続きや必要書類の様式(データ)については、以下に示す学部の留学ページにも掲載しているので参照してください。(パスワード: mid_long)

http://www.hss.nagasaki-u.ac.jp/student/midlong_youshiki.html

問い合わせ先

この手引きやその内容にかかる申請及び問い合わせは、多文化社会学部学務係の窓口にて対応します。

【単位認定申請についてよくある問い合わせ】

・ 〆切日までに申請書類を提出できません。

→ 〆切日までの提出が難しいことが事前にわかっているのであれば、相談してください。

突発的な事態（弔事、事故、病気など）により〆切日までの提出が難しい場合は、状況に応じて対応します。

・ 〆切日までに成績証明書が準備できません。

→ 〆切日までに成績証明書が準備できない場合は、代わりに成績確認画面のスクリーンショットなどを提出してください。のちに成績証明書が入手出来たら、改めて成績証明書を提出してください。

・ シラバスが用意できません。自分が留学した大学は既に単位認定実績のある大学なので、過去の単位認定申請で使用された資料で代替できませんか。

→ たとえ同じ講義であってもマイナーチェンジが施されている場合もありますので、授業内容などの確認をします。自分が留学していた当時の授業のシラバスを準備してください。シラバスに具体的な履修内容が書かれていない場合は、授業担当教員から配布された資料を援用してください。

・ 単位認定をすると成績が良くなると聞きましたが、本当ですか。

→ 成績評価については、留学先大学におけるナンバリングシステムでの位置づけと評価を把握及び考慮し、相対的かつ総合的に判断した上で、長崎大学での独自の成績評価に置き換えます。成績評価が相対的に高くなる場合として、入門科目や基礎科目ではなく、学部3～4年次が受講するような専門教育科目を受講し、単位を修得した場合が考えられますが、一概に「単位認定をすると成績が良くなる」と認識を持つことは正しくありません。

・ 単位認定の結果はいつ頃通知されますか。

→ 2月10日〆切に合わせて申請をした場合は3月末～5月末、8月10日〆切に合わせて申請をした場合は9月末～11月末です。

・ 教養教育科目の単位認定の結果はいつ頃通知されますか。

→ 半年に一度、学部の単位認定が全て終了した後に、一括して教養教育科目の申請を行いますので、教養教育科目の単位認定の通知はおおむね6月下旬以降・12月下旬以降となります。